

## 1 研究の優れている点

- **研究の継続性**
  - ・ 昨年度の課題を基にした研究の方向性の明確化
  - ・ 「主体的な学び」に関連付けた課題の整理
- **データに基づいた客観性**
  - ・ 具体的な「行動観察」の視点
- **各学校で活用できる提案性**
  - ・ 児童生徒の実態に応じたアプリケーションや機器の活用例の紹介
  - ・ ICTを活用した指導の提案

## 2 研究との関連事項 (1)

特別支援教育におけるICT活用の意義, 有効性

○ 学校におけるICT活用に求められるもの

児童生徒が・・・情報手段に慣れ親しみ、その基本的な操作や情報モラルを身に付け、適切かつ主体的、積極的に活用できる

↑

ICT機器を有効に活用  
→ 指導の効果を高める

学習意欲を高め、学習内容の定着を図るために

参考: 文部科学省 (平成21年): 『特別支援学校小学部・中学部学習指導要領』海文堂出版  
文部科学省 (平成26年): 『学びのイノベーション事業 実証研究報告書』  
文部科学省 (平成23年): 『教育の情報化ビジョン』

## 2 研究との関連事項 (2)

ICT活用と合理的配慮

平成28年4月「障害を理由とする差別解消の推進に関する法律」(障害者差別解消法)施行

合理的配慮

障害の状態や障害特性等を踏まえた指導方法の工夫や、意思疎通のための支援を含む。

ICT活用方法

- 各教科の理解を促進するための活用
- 認知特性や感覚機能障害、運動機能障害を補う機器としての活用
- 意思疎通の補助的・代替的手段としての活用

児童生徒の実態に応じて適宜活用

参考: 文部科学省 (平成26年): 『学びのイノベーション事業 実証研究報告書』  
Windows クラスルーム 協議会 (2015): 『合理的配慮へのICT活用推進を啓発するリーフレット』

## 2 研究との関連事項 (3)

教員に求められるもの

ICT活用の基本的な考え方

将来の自立と社会参加に向けた学びの充実を図るためには、障害の状態や特性を踏まえた教材を効果的に活用し、適切な指導を行うことが必要。

そのために

教員が教材を活用して適切な指導を行うための体制整備の充実の必要性

- 必要な教材の整備
- 新たな教材の開発
- 教材の情報収集

適切な教材等を用いて適切な指導を行うための  
知識・技能の習得

参考: 文部科学省 (平成26年): 『学びのイノベーション事業 実証研究報告書』  
文部科学省 (平成25年): 『障害のある児童生徒の教材の充実について 報告(概要)』

## 3 今後に期待すること(1)

児童生徒側からの発信を補助できるツールとしての活用

ICTを活用した教材をこれまで以上に活用する  
→ より効果的な学習支援につなぐ

ICTの活用主体が児童生徒となる  
→ 発信を補助できるツールとして役立つ

家庭や各関係機関との連携

- 学校・家庭・地域における学びの有機的連携
- 産業界・大学等との連携 など

参考: 文部科学省 (平成25年): 『障害のある児童生徒の教材の充実について 報告』  
笹方真佑, 山中智子, 高橋信司, 森和也 (2015): 『特別支援教育におけるICTの活用についての研究』  
文部科学省 (平成23年): 『教育の情報化ビジョン』

## 3 今後に期待すること(2)

将来の児童生徒の自立と社会参加を促進

児童生徒の学びの充実

ICTの効果的な活用

- ICTの必要性
- いつでも活用できる環境整備
- 教員間での活用に係る情報共有
- ICTのメリット・デメリットの理解

参考: 文部科学省 (平成26年): 『学びのイノベーション事業 実証研究報告書』  
文部科学省 (平成25年): 『障害のある児童生徒の教材の充実について 報告(概要)』